

第4回「札幌版次世代住宅基準」に関する技術検討会議の要点・課題・今後の対応

| テーマ | 委員 | 要点 | 課題 | 今後の対応 |
|-----------------|------|---|---------------------------------------|---------------------------|
| 夏期の日射遮蔽について | 繪内座長 | ・ 庇による冷房負荷の削減効果より暖房負荷の増加分が大きくなっていることが分かる。窓の方位によって変わってくるであろうが、冷房負荷についてそれほどナーバスに考え過ぎる必要はないと考えられる結果になっている。 | ・ | ・ 中間期、冬期は庇なしのシミュレーションを行う。 |
| | 斉藤委員 | ・ 夏期は庇による日射遮蔽を考慮して夏の冷房負荷を小さくし、中間期や冬期は庇をなくすことで暖房負荷を小さくするといった、いずれの季節もプラス側になるようなケースで負荷計算をしてみてもどうか。負荷の削減量は少ないかもしれないが、居住者の快適性に効いてくるのではないか。 | ・ いずれの季節もプラス側になるようなケースで負荷計算をしてみてもどうか。 | |
| | 繪内座長 | ・ 北海道においても、高断熱住宅の住まい手による生活改善の工夫といったものが大切になってくる。 | ・ | |
| ヒートポンプの成績係数について | 繪内座長 | ・ 暖房用ヒートポンプの成績係数について、前回の2.5を今回は3.0にして計算し直しているが、問題ないか。 | ・ | ・ 了承された。 |
| | 福島委員 | ・ 良いのでは。技術的には無理な数値ではないと思う。 | ・ | |
| | 繪内座長 | ・ 屋根にパネルを載せた場合、COPが3であれば年間暖房負荷36.5 kWh/年・m ² をおおよそ賄えることになる。市民に示す際にも説得力があるのではないか。 | ・ | |

| テーマ | 委員 | 要点 | 課題 | 今後の対応 |
|---------------------------------|------|--|---|--|
| 札幌版次世代住宅基準の普及に向けた検討について | | | | |
| 法的課題の整理 | 繪内座長 | ・ 新築の場合は特に法的な問題はなさそうであるが、既築住宅の断熱改修の場合には、外壁後退1mが問題になることがありそうである。そのような場合、室内側に断熱材を付加してはどうか。 | ・ 室内側への断熱材の付加。 | ・ 外壁後退距離の制約があり、該当する場合、内側断熱が必要であることを明記する。 |
| | 福島委員 | ・ 防湿がある程度しっかりしていれば、問題はないと思う。 | ・ | |
| 札幌市温暖化対策ビジョンで目指す省エネ住宅の普及(長中期視点) | 事務局 | ・ 削減量の中には、千数百戸程度のリフォーム住宅も含まれている。 ・ その際には、平成4年基準から平成11年基準にワンランクアップすることを想定している。 | ・ | ・ 了承された。 |
| | 繪内座長 | ・ 2010年から2020年の10年間は横ばいであるという設定であり、良いのでは。 ・ われわれが議論している技術的な内容についても、今後10年程度を想定しており、30年後、50年後となると、さらに次の段階の話になってくる。 | ・ | |
| | 福島委員 | ・ 道のシナリオも、同じようなものであると思う。 | ・ | |
| 普及促進策について(基準の目指す方向性について) | 岡本委員 | ・ 高齢化が進行し、生産年齢人口は減る傾向にある。新築物件よりも、改修物件の方が増えてくることになる。 ・ 利便性の高い都心部への人口集中が進んでいるが、戸建住宅や分譲マンション等の持ち家よりも賃貸マンションが増えている。30代人口で顕著である。 ・ 郊外の地価は安くなっているが、持ち家を購入する世代である30代の平均年収も下落傾向にある。 ・ リフォームしてハイレベルにするような物件はそれほど多くないのではないか。 ・ 窓一枚から利用できるエコポイントのように、分かりやすく、利用しやすいしくみにすることが大事ではないか。 | ・ リフォームしてハイレベルにするような物件はそれほど多くないのではないか。 ・ 窓一枚から利用できるエコポイントのように、分かりやすく、利用しやすいしくみにすることが大事ではないか。 | ・ 分かりやすく、利用しやすいしくみを構築する。 |

| テーマ | 委員 | 要点 | 課題 | 今後の対応 |
|-------------------------|------|--|---|--------------------------|
| 普及促進策について (性能表示について) | 繪内座長 | ・ 札幌市のラベリングについて、星だけを表示するのか、熱損失係数や暖房消費量、二酸化炭素排出量等も含めて表示するのか、表示内容についての議論をしたい。 | ・ 表示内容についての議論 | ・ 表示内容についての議論が引き続き必要である。 |
| | 岡本委員 | ・ 年度によって性能規定が変わる可能性があるため、ラベルには年度を記載した方が良いと思う。 | ・ 年度によって性能規定が変わる可能性があるため、ラベルには年度を記載した方が良い | |
| | 今川委員 | ・ ドイツのエネルギーパスは、暖房消費量と一次エネルギーを表示しているのが特徴の一つである。 ・ そこまで記載するには、様々な段階を経ており、作業も大変である。 ・ 本制度の場合、資料5の2頁で提案されているようなシンプルな形で良いと思うが、比較・判断ができるような何らかの数値を記載することが望ましい。 | ・ 比較・判断ができるような何らかの数値を記載することが望ましい。 | |
| | 斉藤委員 | ・ 一般の人と断熱や暖房の話をする時、MJやkWh等の暖房負荷や二酸化炭素排出量で書かれても、よく分からないと言われることが多い。やはり一番分かりやすいのは温度ではないか。 | ・ 一番分かりやすいのは温度ではないか。 | |
| | 繪内座長 | ・ 日本では、住まい方によって室温や消費量が大きく変わってしまうという懸念がある。 | ・ 住まい方によって室温や消費量が大きく変わってしまうという懸念がある。 | |
| | 今川委員 | ・ 申請する際、設定室温22℃を前提条件として計算してもらおうというような仕組みをつくれれば、大きな問題にはならないのでは。 | ・ | |

| テーマ | 委員 | 要点 | 課題 | 今後の対応 |
|-------------------------|------|--|---|---|
| 普及促進策について (性能表示について) | 福島委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本制度の性格を考えると、星が表示されていればいいようにも思う。 ・ 北方型住宅E C Oの住宅の調査では、室温が同じであれば、エネルギー消費量は、熱損失係数とほぼニアな関係にある。 ・ 消費量は熱損失係数で決まってしまうので、他の計算が必要なのかという気もする。 ・ ドイツの場合、消費量の計算に設備も入ってくるが、機器効率によって変わるし、一次エネルギーになると熱源によっても変わるので、建物性能が見えにくくなってしまうという面もある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本制度の性格を考えると、星が表示されていればいいようにも思う。 ・ 消費量は熱損失係数で決まってしまうので、他の計算が必要なのかという気もする。 ・ 一次エネルギーでは熱源によっても変わるので、建物性能が見えにくくなるという面もある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回、再度議論する。 |
| | 今川委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ドイツやスウェーデンの場合、窓やドアの性能、機器効率等に対して、公的な機関が検査する仕組みがあるが、日本の場合、自社基準のものや検査方法が統一されていないものもある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の場合、自社基準のものや検査方法が統一されていないものもある。 | |
| | 繪内座長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回、再度議論したい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回、再度議論したい。 | |
| 普及促進策について (審査方法について) | 今川委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ラベルを与えるための審査が必要である。計算用の共通ソフトを設定する必要があるのでは。 ・ 然るべきものを提出し、然るべき判定をしてもらって出してもらったものでないと意味がない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ラベルを与えるための審査が必要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、手続きの方法を検討する。 |
| | 繪内座長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 申請時に計算書を出してもらうか、市で計算するのか、希望者だけを対象にするのか、義務化するのか等、手続きの方法を考える必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 手続きの方法を考える必要 | |
| | 福島委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 性能規定にするか、仕様規定にするかという課題もある。最近、仕様の方が良いと思っている。性能値は、計算した本人しか正しいかどうか分からない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 性能規定にするか、仕様規定にするか。 ・ 仕様の方が良いと思う。 | |
| | 齊藤委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業負荷的には、性能規定の方が良いのでは。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ | |

| テーマ | 委員 | 要点 | 課題 | 今後の対応 |
|-------------------------------|------|---|--|--|
| 普及促進策について (ラベリングのメリットについて) | 福島委員 | <ul style="list-style-type: none"> ラベルは、市民のモチベーションを高めるような表示にした方が良い。それが星かもしれない。 | <ul style="list-style-type: none"> 市民のモチベーションを高めるような表示にした方が良い。 | <ul style="list-style-type: none"> 市民のモチベーションを高めるような表示方法を検討する。 市の広報等による対応を考える。 |
| | 繪内座長 | <ul style="list-style-type: none"> 賃貸住宅の場合には、借り手が安心して借りる際の一つの選択肢になる。 市は発行したプレートの数で、ストックの内容を把握できる。 どういう施策が実現できているかも見えてくる。一種の住宅の国勢調査みたいなものである。 | <ul style="list-style-type: none"> | |
| | 今川委員 | <ul style="list-style-type: none"> ラベリングが性能の高い住宅を選択・購入する際の目安の一つになることが重要で、市民のメリットにつながると思う。 市の広報等で市民にきちんと伝えることで、市民からの要望等で業者にも浸透していくと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> 市の広報等で市民にきちんと伝えること | |
| 普及促進策について (ラベルについて) | 今川委員 | <ul style="list-style-type: none"> スウェーデンの熱交換換気装置の会社の性能保証プレートは金属製で、ステイタスシンボルとなっている。 シールだけでは、物足りないと思う。どのような形にするか検討が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> シールだけでは、物足りないと思う。どのような形にするか検討が必要 | <ul style="list-style-type: none"> 表示する内容が決まっからの課題であり、今後検討を行う。 |
| | 繪内座長 | <ul style="list-style-type: none"> 耐候性のあるラベルにする必要があるのかもしれない。 | <ul style="list-style-type: none"> 耐候性のあるラベル | |